

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400146		
法人名	社会福祉法人 敬聖会		
事業所名	グループホームききょう (和ユニット)		
所在地	函館市桔梗町5 5 7 番地		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年4月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171400146&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 1 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームききょうでは今年もカラオケの慰問がボランティアさんにより行われました。施設内での行事は時花見、夏祭り紅葉ドライブ等です。地域や家族の方々の参加も増えてきています。医療との連携にも力を入れ看取りの勉強会を、協力病院の看護部長に講師を依頼し行いました。様々な勉強会を開催し、入居者やご家族、地域の方々に求められるサービスを提供できるように努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道内グループホームの草分け的存在である当ホームは、国の支援を受けて開設した4ユニットを有する規模の大きい堅牢な建物で、広くゆったりとした共有スペースや全居室に設置のトイレと洗面台等、利用者の暮らしに配慮されており、築後10年の経た現在でも整然とした清潔感のある施設です。ホームは市街地から離れていますが、四季の景観に優れた場所に位置し、運営法人系列の医療機関やケアハウスなどが隣接しているため、これら施設との共同事業や利用者の受診などの連携が、利用者や家族に安心感を与え、職員にとっても頼れる心強いホームとなっています。ホームの職員は、ほぼ全員が介護福祉士等の国家資格を有しているなど、人的資源の豊かさが、利用者へ良質のケアサービスを提供できる要因となっており、家族も職員の笑顔で親身な対応に安心し、満足しているホームとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルームに貼り、毎日理念を念頭に置きサービスにあたっている。	運営法人の理念と「生活と地域」をキーワードにしたホーム独自の理念を持ち、ホーム内に掲示しています。職員は、日常業務において理念を意識しながら、利用者へのケアサービスに努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	3カ月に一回の運営推進会議に、町会の人に参加してもらい意見交換を行っている。	ホーム周辺は住宅や企業等が少ない立地環境ですが、隣接の系列事業所と合同の行事開催、小学校との交流、地区町会メンバーの運営推進会議参加、住民の方からの野菜等の差し入れなど、地域との交流があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3カ月に一回の運営推進会議に、町会の人に参加してもらい、生活の様子や支援の内容を報告している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活や行事の様子を会議に参加されたご家族に伝え意見を聞き、又、ご家族に運営推進会議の内容を送付しており、必要性和理解は増えてきているように思える。	運営推進会議のメンバーは、町会及び行政関係者、家族、ホーム関係者など、多人数で構成され、報告事項や質疑応答などを行いながら、ホーム運営に活かすようにしています。	今年度の会議開催数は、諸事情により少ない状況にありますが、今後、2ヵ月毎の定期開催と広範囲の参加者呼びかけに努め、活発な意見交換の場となる事を期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に生活相談員が市町村担当者と連絡を取り合い、サービスの状況を伝えている。	行政関係者とは会議で接触の機会がありますが、さらに市担当者によるホームへの現地指導や管理者の市担当窓口訪問等で、相談や情報交換を行うなど、行政との協力関係が築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為夜間は玄関を施錠しているが、日中は開錠している。身体拘束について研修に参加したり、ミーティング時話し合い拘束は行っていない。	身体拘束関連のマニュアルや資料を整備し、職員は外部研修や内部の勉強会を通して、身体拘束をしないケアを理解し、実践に努めています。ホーム正面玄関の施錠は夜間のみで、ユニットの入口に施錠は有りませんが、利用者の出入りは分かるようになっていきます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング時に話し合い、都度虐待について確認し意見交換を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、スタッフで話し合い勉強の場を作っており、該当するような利用者がいた時は、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	生活相談員が入居・退去時に利用者や家族が話しやすいよう十分な時間をとり説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エントランスにご意見箱を設置し又、家族へ年に数回アンケートを出し意見を聞いている。他に家族来訪時や運営推進会議等の際意見を頂き運営に反映させている。	家族への利用者に関する情報提供は、家族来訪時やホーム便りで伝えています。家族からの意見、要望等は、利用者の支援経過表などに記録し、申し送りやミーティングで検討し、業務へ活かすようにしています。	家族は、利用者の暮らしぶりや健康状態を心配していますので、一人ひとりの様子を記入した「お便り」を、写真と共に送付するなどの工夫を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やその他細めに各ユニットを往来し、職員からの意見を聞けるようにしている。	職員の人間関係は良好なため、日常業務の中で、管理者やユニット主任と自由に話し合いをしており、内容によってはミーティングで協議しながら、課題解決を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会や研修に参加できるよう機会を多く設け、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修等、個々のレベルに合った研修会への参加を促し、個々のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他施設の職員と事例について話し合ったり、意見を交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際には話しやすい場作りをし、本人が思っていることを少しずつ聞きながら、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談だけでなく、電話での相談や来訪時に、不安に思っている事等を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に添えるようにスタッフで話し合い、どんなサービスが良いのかを話しながら、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることや不十分な所を引き出し、サポートしながら共に生活していけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の来訪時に本人の状況を伝えたり、何かあったらすぐ電話するなどしている。又、今までの生活に近づけられるように一緒にケアについて考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人親戚の方の来訪時また来てもらえるよう声を掛けたり、電話や手紙でのやり取りができるように必要時は代行している。	職員は、利用者の手紙や電話のやりとりを支援し、馴染みの場所への訪問希望には、状況に応じて、家族と相談しながら出かけています。親戚や知人が会いに来た際には、お茶や希望によって食事も提供しながら、居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろいろ席を工夫し、みんなが集まれる場作りをしたりと関わりが持てるようにしている。必要時にはスタッフが介入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお見舞いに行ったり、相談に乗ったりと関わりを持つよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中からその人の希望を聞き、困難な場合は家族へ情報を求めたり、スタッフ間で情報を共有しながら支援している。	ケアプランの記録内容を参考にし、職員同士や家族とも相談しながら、思いや意向を把握するようにしていますが、困難な時は、複数のケア方法を試しながら、利用者中心に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のバックグラウンドや生活歴を探り、必要時は家族や親しい友人等関わっていた人やケアマネからも情報をもらうようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や排泄チェック表に細かく記入し、申し送りや業務の中で情報を共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れられるよう、ミーティングやカンファレンスの際話し合い介護計画を作成している。	センター方式のケアプラン様式を利用し、プラン見直しの際は、出来るだけカンファレンスに家族の参加を頂きながら作成しています。ケアプランと介護記録表が連動しているため分かり易く、ミーティング等を通して、ケア内容を全職員の共有としています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったものは青字で記入し、普段と変わったことがあった際は詳しく記し介護計画の見直し時に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族より利用者との外出の希望があった際は、必要時には付き添ったりとできるだけ希望に添えるよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや病院の売店では会計時店員さんが手伝ってくれる。よく行くアイス屋さんでは食べやすいようカップに入れてくれるなどの配慮もしてくれている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは情報の共有を密に行っており、特変時にはすぐに医師から家族へ病状の説明を行ったり、今後の事を話す機会を多く設けている。	隣接の医療機関への受診が容易ですが、複数の医療機関による月1～2回の訪問診療もあります。かかりつけ医への受診も自由なため、職員が付き添い、受診結果をホームにおけるケアサービスに反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル・状態に変化があった時は、すぐに看護師に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁に見舞いに行くなど状態や今後の治療について医師や看護師・SWと定期的に話し合いの場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針や必要な説明事項は用意しており、必要時は行っている。	ホームは看取りの指針を作成し、入居時に説明して同意書を頂いています。家族の希望が有れば看取りまで行う方針のため、利用者の状態変化に応じて、医療機関と家族と改めて相談しながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し備えたり、AEDの講習も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会いのもと年2回訓練しており、訓練時には他施設とも協力している。又、地域の方に参加して頂けるよう、お手紙を出している。	ホームは、隣接の系列事業所と合同で消防署の指導の下、避難訓練を実施し、地域へも避難訓練の案内書を配布しながら、協力要請を行っています。非常用飲食品や物品も備蓄し災害に備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗時やわからないような時は、他者に気付かれないようフォローしたり、場所を変えたりしている。	職員は、利用者への言葉かけや、身体の汚れなど、利用者一人ひとりの人格の尊重と誇りを損ねないように十分に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい際は、選択肢を与えたりきっかけを作ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた時間ではなく、本人の希望する時間に入浴や食事ができるようその人その人のペースに合わせてセッティングしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでもらったり、外出の前に声を掛け、化粧や身だしなみを整える時間をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けや食器洗いを行ったり、食事の際に話が弾むような場作りや話題を提供している。	食事の副食品は隣接のケアハウスから運ばれますが、一部の利用者は食事準備や後片付け、おやつ作り、菜園の野菜収穫などを手伝っています。また、利用者の誕生日やホーム行事の際は、利用者の好みを食事に反映させています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事量や水分量を把握しており、野菜嫌いの方には飲みやすい野菜ジュースを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で困難な方にはスタッフが代行したり介助をし、必要時にはポリドント洗浄もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄パターンを把握し、定時のトイレ誘導ではなくその日の状態に合った対応をしている。	比較的介護度の低い利用者が多く、おむつも夜間のみ使用の方が僅かにいますが、職員は排泄パターンを把握しながら、一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、青汁や乳製品などを提供したり散歩など体を動かし予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望時に入れるように、追い焚きをするなどして、いつでも入浴できるようにしている。	週2回を原則として日中に入浴していますが、利用者の希望や身体状況によって、随時、入浴又はシャワー浴を実施し、身体の清潔を保つようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の希望に沿った時間に安眠できるよう、居室を温めたり湿度を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬なのか必ず内容をチェックしたり、服薬変更の場合は細めにバイタルチェックや状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、片付け等の家事作業やその人に合った趣味活動が行えるよう場作りしたり、常に好きなお茶やお菓子を用意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物を希望された時は出来るだけすぐ行けるよう調整している。又、法事や墓参りには家族に協力して頂いている。	利用者は、周辺の散歩や隣接施設の売店での買い物、菜園や花壇の手入れなどを行い、車両で花見や外食など外出も支援しています。冬期間は、広いホーム内の他ユニットを訪問するなど、身体を動かしてADL（日常活動動作）低下を防ぐように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できるか見極め、管理できる方にはお金を渡しており、買い物の際にはできるだけ自分で支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話のない方が希望の際にはスタッフルームの電話を使用して頂いている。他、切手やハガキを用意しておいたり、手紙のやり取りが困難な方には必要時手を貸している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさを都度調整したり、サロンや居室には季節を感じられるような飾り付けをしている。	内部全体が明るく、ゆとりのある建物ですが、特に居間兼食堂は全面窓ガラスのため眺望が良く、山の木々や花など四季の景観が楽しめます。内部の廊下、浴室などの共有空間も十分な広さがあり、非常口も外部へ出やすい構造です。ホーム開設後、10年を経過しましたが、清掃と衛生面に配慮してきたため清潔感があり、利用者は居心地良く過ごしています。	玄関ホールは、明るく広い空間で、応接セットも配置されていますが、玄関付近は総じて寂しい感じがしますので、壁面の絵画や鉢植えなどの設置によって、落ちついた親しみのある場所への工夫を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過ごせるよう離れた場所に1人がけソファを配置したり、談話しやすいように2人かけソファや対面できるように配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらっており、本人が過ごしやすいしつらえをしている。	居室スペースは広く、洗面台付のトイレと押し入れが全室にあり、加湿器も備え付けられ、暮らしに便利な空間が提供されています。利用者は、テレビや馴染みの調度品などを自由に持ち込み、ゆったりと過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入口に写真や表札を下げ、自分の居室を分かりやすくしたり、その人に合った使いやすいテーブルやイスを使用している。		